

当会会員の(株)倉本鉄工所（北見市）が、
平成29年12月8日(金)付の、日刊工業新聞に紹介されました。

超撥水溶射皮膜技術を開発

倉本鉄工所



北見工大などと連携

営業強化、複合ワイヤ拡販

【札幌】倉本鉄工所（北海道北見市、倉本真社長、0157・24・2031）は、独自の超撥水性溶射皮膜を作り出す、溶射加工用の複合ワイヤについて拡販体制を強化する。2―3年をめぐりに担当を増やす計画のほか、関西地域での複合ワイヤの営業活動も進めており、事業拡大を目指す考えだ。

超撥水性の溶射皮膜を形成でき、液体が付着しにくくなる。耐食性・耐摩耗性のほか、抗菌性、防錆などが期待される。

複合ワイヤの製造装置は倉本鉄工所が手がける。中小企業基盤整備機構の販路開拓コーディネーター事業（近畿）を活用し、関西で生産した複合ワイヤの営業活動を16年から進めてきた。さまざまな素材を用いた複合ワイヤを提供できることを訴求し、好反応も多かったという。食品機械に対する抗菌などへの展開も見込む。

18年度は新卒入社4人を含め、5人程度の採用を想定する。現在、複合ワイヤ関連の担当は1人だが、新たな人員も生かしながら、溶射に関する知識を積ませた後に「まず2人体制にしたい」（倉本社長）と見据える。

倉本鉄工所は主に水処理や廃棄物処理プラントなどの設計・製作から据付に至るまで一貫して対応する。17年3月期の売上高は約5億円。

道内の中小企業や中小機構北海道による寒冷地対応の電気自動車製作に参加し、同皮膜技術を生かした車体下部の雪水付着対策を手がける。

営業体制を強化し、超撥水性溶射皮膜用の複合ワイヤを拡販する